

KSKR
NO. 25



ハロ、ニッ たより うつみいさよ

発行 1997年11月
編集 クリエイティブハウス
"パンジー"



アメリカへ研修に行ってきました *Chitose Chitose*

秋も深まり、まわりは紅葉の季節から極寒の冬（個人的に大嫌い！ 身体が動かないよ！）へと移り変わろうとしています。みなさま方、冬への準備はお済みでしょうか。

パンジーでは、みなさまに大変お世話になったTシャツの販売や、自閉症を中心としたメンバーとのコミュニケーションをはかる生駒でのワークショップも順調に終わりました。現在は、静岡での全国交流集会の準備から、年末に向けての授産部門の販売戦略と数々の活動や行政への交渉の準備に追われています。

そんな忙しい中、私はアメリカのカリフォルニア州に制度の勉強のため、9月の1週間を研修旅行に行ってきました。カリフォルニア州はアメリカの中でも、ピープルファーストの考え方や制度がもっとも進んだところです。今回は吹田のぷくぷくグループが企画して、スタッフの研修として行ってきました。

（パンジーのTシャツに書かれている“WE ARE PEOPLE FIRST”（自分たちは第一に人間であり、障害は二義的なものである）の文字。これは、'60年代にスウェーデンに始まり、カナダ・アメリカへと広がった発達障害者の運動です。現在アメリカでは、このピープルファーストに知的障害者を中心とした12,000人の人たちが参加しています）。

そんな中、当事者との夕食会を持ちました。「自分が自立の手本になりたかった」「支援者は、車椅子の人のためのスロープのような存在」「自立のひとつひとつが非常に強い喜び」「自分を主張して、できることをどんどんやっていくと、さらに自信につながる」との力強いことばが印象的でした。

そして支援者側の重要な二つのポイントとして、

- ①判定しないこと！ 決めつけない！ 判断を押しつけない！
- ②知的障害者の見方で世の中を見る！ 彼等の目で社会を見る！

ということが言われていました。そのことを頭に置いて、これからの支援活動につなげていきたいと思います。

(みつよし)

どらえもん会からの要求が来た!



こんにちわ、パン部門です。いよいよ冬も本番を迎えサンタクロースも忙しい季節がやって来ました。先日、どらえもん会で「自分たちの給料やボーナスがどうなっているのかわからない。イベントで店売りに行ったときに、いくら売り上げがあったのかもわからない。自分たちが、がんばって売っているのだから、いくら売ったのか、職員は教えてほしい」という話し合いがありました。

私が売り上げを気にしているように、メンバーも売り上げを気にしている、上がれば励みになるし、下がれば皆でどうするか考える……そういった当たり前のことにこれまで気づいてこようとしなかった私が恥ずかしくなりました。

日常の中にうもれて、たいせつなことを見失ってしまいがちな私ですが、メンバーに教えてもらいながらやっていこうと気持ちを新たにしています。

さて、次はボーナスや! クリスマスギフトに、パンジーの自信作「ど根性ギフトセット」をよろしく願います。

(竹内)

大人として互いが尊重しあえるために

クリエイティブ部門でも4月から新人メンバーを加えて半年たち、ずいぶんと落ち着きを見せている。しかし、そのような中で若いメンバーのこだわり行動などに、集団の中でつきあうことへのとまどいが起こることもある。

そのような自らのとまどいを中新井先生に相談した。先生の言った内容は、「彼らは、相手の考えや気持を理解したり、自分の要求を伝えたりするのがにがてであることが障害のベースにあり、それに少し遅い思春期が影響していることが考えられる」というものであった。

「思春期」であること。私が持つ社会的な規範や仕事の都合から彼らの行動を規制しようとしたことと、彼らがまわりの支配からの脱却へ向け、選択の自由と幅を広げようとするところとが、ぶつかる中で起きたことであったことに気づいた。そして、彼らと付き合うことでの私の中の不安感やとまどいの感情が大きく薄らいだ。今後も色々な葛藤があると思うが、彼らを大人として尊重し、私の価値観や規範を変えていくようにしなければならない。

(おおきた)

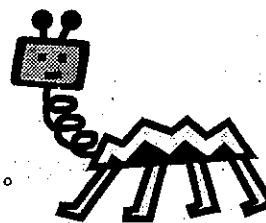
ショートステイだより
サービスの低下を
ゆるさない!

いろいろな課題をかかえながらの
ショートステイも、スタートして半
年が過ぎ去りました。困っている地

域の障害者への緊急支援の要請、家族の介護疲労へのレスパイト（一時休養）な
ど、いくらかずつでも支えになってきたと思います。

東大阪市では、いろいろな民間施設などでショートステイを始める一方、地域の中心的役割を担うべき総合福祉センターのショートステイを縮小していこうと
しています。これは地域の障害者にとって大きなサービスの低下につながる問題
だと考えます。パンジーでは、障害者へのサービスの低下につながらないよう、
市に要求していく一方、もちろん緊急一時的な意味でのショートステイを充実し
ていくつもりです。（利用者のみなさん、緊急の利用の場合も遠慮なくご連絡、
ご相談ください）

つばさにテレビ取材がやって来た!



去る9月22日、つばさに関西テレビの取材がありました。
関西テレビが大和川病院事件についてドキュメンタリー番組
を作るということで、以前、大和川病院に入院していて、現在パンジーで元気に
働いている森さん取材に来たのです。まず、パンジーで大和川病院に入院させ
られていた時のこと（患者なのに無給で配膳の仕事をさせられたこと、たくさん
の薬を飲まされ、毎日点滴・採血を強制されたことなど）を話しました。その後、
グループホームで生活しているところもカメラにおさめたいと、つばさの夕食風
景をとってもらうことになりました。

この日は、寿司を買ってきて豪華な夕食をしたのですが、みんなテレビカメラ
を意識してか、「おいしいなあ」とかいう会話も無く、無言で黙々とお寿司を食
べたのでした。10分くらいで取材が終わり、カメラが無くなるとやっと、わいわ
いがやがやと言いながらお寿司を味わって食べる事ができたのでした。

11月8日放映予定のこの番組に、森さんの話やグループホームでの生活がどの
くらい流れるのかよくわかりませんが、みんなとても楽しみにしています。その
テレビを見て、森さんのことやパンジーのことを知り、会ってみたい、関わって
みたいと思う人がいればうれしいなあと思っています。（まめやん）

わくわくのページ 宝塚ファミリーランドにて

今回は、最近のわくわく活動の中で、僕がとまどったことについて書きます。みんなで宝塚ファミリーランドに行った時のことです。帰る時間になっても、A君が人形館から離れなくなりました。A君は出口のところで鉄の柵につかまり、人形館の中を一生懸命見つめています。迷いながら「もう時間だから帰ろな」と声をかけても、A君は首を横に振りました。

帰る、帰らないで、10分ぐらい押し合いへし合い。これでは無理だ！ と思い直し、もう一度中へ一緒に入ってみました。しかし、楽しんで出てきた後は、前と同じでした。もうこれ以上、どうしたらいいのか分からなくなりましたが、とにかくA君が帰る気になるまで気長に待つことにしました。A君の意志に反して無理に力で進めてもどうにもならないのが分かったので、今度は言葉で、「もう今日は終わり、また今度来よう」と何度も言いました。すると、20分くらいした後、何が転機になったのかは分かりませんが、あきらめて帰ろうとしました。僕は、ホッとして帰り道につきました。

現在、パンジーでは、仕事や生活面でもいろいろな「こだわり行動」が強くなっているA君について、どの様に関わっていけばよいか、中新井先生とのミーティングや家族と話をしながら試行錯誤の毎日が続いています。僕も、この日の出来事を通じて、改めてA君の「こだわり行動」への自分の関わり方を考えてみました。パニックになってから対応するのでは、止めるか許容するかを選択になってしまい、問題解決にならないと思いました。また、社会生活を送っていく上で支障になるようなこだわり行動が続く場合、どうしていけばいいのか迷っています。どうしても止めさせなければならないときは、言葉で強く言うこと、力で制止する事も必要だろうと思います。でも、いわゆる問題行動だけを見るのではなく、A君の全体を見ること、表面に出ているのは心の動きのほんの一部であり、その陰に潜んでいることに真実があるということをしかりと押さえておかなければならないと思っています。

(まめやん)



12月

のわくわく活動のお知らせ

12月6日(土) クリスマス会(去年は梅田の「CLUBDOWN」で大騒ぎ)

12月21日(土) 外出活動(メンバーの行きたいところに行きます)

年末・年始のガイドヘルパー大・大・大募集中!

お客さんが入ってく彼の背中がそわそわしているけれど、チラッとしてある。でも彼はショッだ。はじめて来て下さっの様子に「あれ？」とそんな時は話しかけてみだけで空気がやわらかくなって、いつものゆったりした時間が流れる。

お客さんが来られたといっても愛想良くなったり、きびきび動き出すメンバーは少ないかもしれない。かえって緊張して体が固くなってしまう人もいる。でも、その人の持ち味がじんわり出てきて、素朴で一生懸命な気持ちはきっと伝わっていると思う。「何か変わったお店だと思ったけど、また来るよ」「コーヒーおいしかった、ありがとう」、一言一言がとても嬉しい。メンバーが入れるコーヒー、その腕前は本物です。一杯250円で安くておいしい！ ご来店をお待ちしています。

(はたなか)



ると隅っこに座っていたです。人の気配を感じて目をやるだけでそのままプで働くことが大好きなたお客さんの中には、店内まどいを見せる方もいる。少しことばを交わした



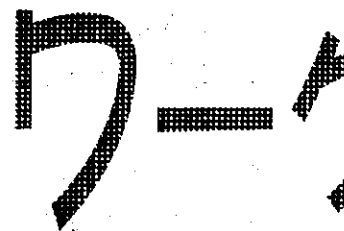
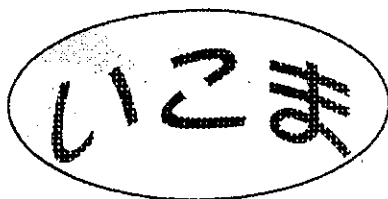
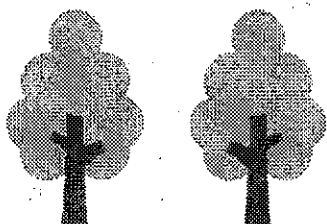
厨房が昼ごはんの他にグステイの夕食の一部を作るようになって半年たちました。

ループホームとショート

約50人の昼ごはん作りの流れの中に10人分のメインと15人分のサブメインをのせ、11時30分までに仕上げます。1か月前に作成したメニュー表にのって乾物類は一か月単位、肉類は一週間分ずつ仕入れ、冷凍しておきます。魚、生鮮野菜はその日、私と一緒にパンジーに来ます。以上は予定で、実際はその日のメニューに一番大事な食材が抜けていたり、イメージ通りの味や、ボリュームが出せず、情けなくて心のなかで泣く日も少なからずあるのです。たまに逆の時があり、自己満足していると、パニックしたメンバーにできあがったばかりのごはんをトレーごとひっくり返されて、厨房内の空気は一瞬真っ白になってしまいます。気がつくと施設長がご自分がやってしまったかのように申し訳なげに静かに片づけています。日常のいろんな場面でパンジーの理念を自然に教えられている毎日です。

(河野)

どらえもん会のページ



10月8日(水)、9日(木)生駒で、「コミュニケーションのおずかしい人たちのワークショップ」をひらきました。9月に予定していたのですが、台風接近のため延期。待ちに待った、ワークショップでした。

★いちにちめ

くるまにのって、しゅっぱつ。まずは、宿泊先の「生駒さんろくふれあいセンター」で、アスレチックをしました。かなり険しい道を歩いたり、おずかしいアスレチックもありましたが、なんのその、元気いっぱいにどンドンこなしていく人、怖々だけどチャレンジする人、それぞれいろんな楽しみ方を見つけ、進んでいきました。



チェックインまで、センター内を探検。

「生駒さんろくふれあいセンター」にとまるのは、去年に続いて2回目。また、事前に下見に来ていたので、みんな慣れた様子でした。

夕食後は、大きなお風呂を楽しんだり、散歩に出たり、思い思いに過ごしました。



ワークショップ



★ふつかめ



天気は快晴。午前中は、センター内のプールで遊び、午後からは、近くのキャンプ場でバーベキュー！食べても食べても、まだまだ出てくるお肉に、みんな大満足でした。

おなかもいっぱいになったところで、最後はミニハイキング。室池周辺の散策コースをみんなで歩きました。ふだんは室内での作業が中心で、体を思いっきり動かす機会がだんだん減ってきているメンバーにとって、のびのびと過ごすことができたようです。

ハードなスケジュールにもかかわらず、みんな、疲れも見せず元気にパンジーに戻ってきました。

メンバーが帰ってからヘルパーと職員は、中新井先生を囲んで感想会を開きました。昨年のワークショップに比べ、いろんなことができるメンバーに、驚き感激した、2日間でした。来年も、楽しいワークショップを開きたいと思います。





先日、昨年と同じ

場所でワークショップが行われ、E君は今年も母親同伴で参加した。一年前のことだが、母を強引にひっぱって一緒に滑っていた長いすべり台で、スタッフのOがE君を誘った。彼は頭を強打して抵抗したが、母が途中で待ち受け、次に一番下で見守る中でOと一緒にすべり台ができたのは大きな収穫だった。

今年は？ 彼の行動の変化を見るのに絶好の機会と私は楽しみにしていた。期待どおり彼は躊躇なくOの肩を借りてロープ滑りをやっての

けた。夕方、母と別室になると自傷が始まったが、夜は問題なくOと一緒に寝た。

翌朝母と再会したが、さっさとOの後について行動し、笑顔でプールやバーベキューを楽しんだ。帰りの車中でOが「パンジーに着くと叩き出すのでは」と予想した通り、玄関に入るや否やまた始まったのはほほえましかった。楽しい行事の終わりに皆が感じている気持ちを代表して表現しているように思えた。

昨年の今頃、やはり激しく叩いて彼は、時折大声で泣くようになった。こぼれる涙をこぼして拭う様子は本当につらそうで、皆が共感できるようになった。家でも母の姿が見えないと声をあげて泣くので、父は「オレはなんやねん」とぼやいたそうだが、今まであまり泣かなかった子が、涙でくしゃくしゃになるのを母は喜んで見ていた。

正月休みの後、体調が悪く2か月近く欠席して心配したが、久しぶりに通所し

た彼の顔にはもう自傷のあざは消えていた。ある日、偶然に流れていたドリフターの歌に合わせてステップを踏んでいる彼を見て驚いた。巨体が実にリズムカルに動いている。一緒に踊ると実にうれしそうに笑う。以後、ドリフは彼のテーマ曲になり、スタッフが忘れておぼろくウロウロためらってから、意を決したように「ママ」とラジカセを指さすようになった。母を介さずに自分で自分の意志や気持ちを伝えることが少しずつできるようになって、彼は重役出勤をや

親離れ、子離れ

中新井 滯子

めパンジーバスでやって来るようになった。仕事はしたりしなかったりだが、自傷行為はすっかり消えていた。

4月より新しいスタッフが増え、ショートステイも始まったので、Oが側にいることは少なくなったが、その分他のスタッフとの関係も出来つつあった。だが、要求を出すときはまだ躊躇していることが多く見られた。時々手持ちぶさたのように頭をかいたり叩いたり、その手をつくづく眺めたりしていたが、7月の終わりに突然激しく叩き出した。同室のスタッフがそのきっかけを把握できなかったのは残念だったが、その後のスタッフ達の受け止めは昨年とあきらかに違っていた。「もう一度、丁寧に接していこう」と慌てず、逃げず、行為そのものにこだわらない様子を見て、E君だけでなく私も含めて皆が変わったとうれしかった。

ワークショップ以来、彼はかなり強引に自分の意志を示すようになってきている。これからは行事に一人で参加できるようにもなるだろう。お母さんはきっとさびしくなるだろうけれど——。

梅原君、ムツとする！

梅原君はよく笑う。笑顔がとてもいい。梅原君は明るく、よくしゃべる。いっしょにいて楽しい気持ちになる。だからパンジーのみんなの人気者である。そんな梅原君に、「本当は、悔しかったこと、悲しかったこと、怒っていることがあるんじゃないの？」とつっこんだ。「何でぼくの本音を聞きたいと言うんや！ ぼくが今話している気持ちは、本当の気持ちじゃないんか！？ 親から離れて自立したいと思っているんや。この気持ちも、本当の気持ちじゃないんか」と梅原くんは、私にしつこく聞かれてムカッとしながらも……話してくれた。



「小学生のときに、失敗して先生から怒られたことがある。子どもは失敗するのはあたりまえと違うんか。今ならそう思うけど、そのときはわからなかった。ぼくは、感情を出すのが怖い。昔、もっと遠慮しろと介護者に怒られたことがある。ぼくは、相手に嫌われるのはイヤだ。相手にイヤな感じを持たせたくないのや」。私はそのときやっと、梅原君は気持ちを伝えないのではなく、伝えられなかったのだと気づいた。上っ面な関係ではなく、いろんな感情を共有できるように、私も成長していきたいと思った。 (竹内)

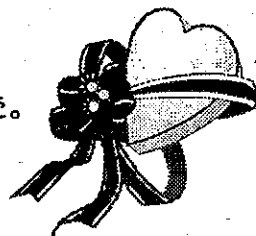
野畑宏治の

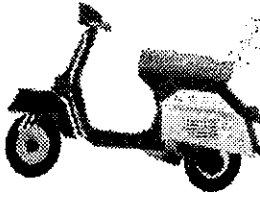
まんぼろしい映画

第4回「ベストフレンド・ウェディング」

出演：ジュリアロバーツ

外人の女の人が、レストランで裸でおどった。
指揮者と、トランペットの伴奏でみんなおどった。
結婚式のお祝いをして、駅で汽車に乗って手を
ふったところがよかった。
ダイアナさんみたいやった。





ガイドヘルパー物語

都市をデザインする立場として、
すべての人に優しい物を作りたい

ひらの・かなめ

「今度、“パンジー”っていう作業所ができんねんけど、ガイドヘルパーせえへん?」、職員さんの一人にそう誘われたのが、私のガイドヘルパーの始まりである。その頃大学にも合格し（誘われたのが合格発表の日だったことを覚えている）、ルンルン気分の私であったが、“ガイドヘルパー”と聞いてもなんのこともよくわからず、新しいことは何でも体験してみようと思ひ、ヘルパーを始めた。

ヘルパーを始めた最初は、障害者に接したことも少なく、ましてやデザインを専攻している私にとって福祉について学んだ経験など一度もない。何の知識もない私が、ヘルパーなんてやっていていいのかというまどいと不安でいっぱいだった。そんな私でも、何度かヘルパー活動に参加しヘルパーの経験もふえ、福祉学科のある他大学での講義を受講することやヘルパー研修会に参加することで、障害者についての知識も少しはできた。

そうしたことが私の不安を少なくし、メンバーさんの私に対する不愉快さも減ったと思う。経験なんてのは、行動して初めてできるものだし、経験のない者でも学べば知恵はつくということを知った。そのきっかけを与えたのが私の場合、パンジーでのヘルパー活動だった。

また、私の人生（進路）にも大きな影響を与えた。来年の4月から社会人となるわけだが、都市をデザインする立場として、すべての人に優しい物を作りたいと考えるようになった。机上の資料だけではわからない、私の経験がいかせるデザイナーと、ユーザーの関係を大切にしていきたいと思う。

最後に、私が誘われたように、多くの人をガイドヘルパーに引き込みたい。そして、多くのことを経験し学び影響されてほしいと思う。私の親友や後輩がもうすでに、メンバーさんと楽しい時間を過ごしている様だし……。



愛情とクリームパン

壮大なパン実習 鴻池東小学校3年生をむかえて

この秋一番に、毎年恒例になっている、鴻池東小学校3年生のパンづくり実習が、パンジー内で壮大におこなわれました。パンの作りかた、パンの出来上がる過程、発酵のメカニズム等、毎日パンをつくっている身には、ひどい失敗でもしない限り、あらためて思い返すことはあまりないので、パンの説明をしつつ、初心者と一緒にパンを触るといことは、わたしたちも基本を見つめ直す良い機会となっています。

さて、そのパン実習に参加した3年生から感想文が届きました。紹介します。

「パンジーのこと」

I・M

9月3日に、わたしはパンジーのところにいきました。そして、ついたときパンの作りかたを、おしえてくれました。そして、メロンパン、あんパン、クリームパンのなかで、わたしはクリームパンにきめました。そして、クリームパンのきじをまるめるとき、うまくできなかつたです。パンジーのおねえさんのほうは、じょうずでした。それはたぶんなれているからだとおもいました。それで、先生は、愛情をこめてと言いました。そしたら、せんせいのがうまくできました。でも、わたしは愛情もこめてないのでできました。のばしてクリームをぬってそしてわすれたけど、何かの中にいれました。そして、つぎは、たまごをゆりました。そして、つぎはやきました。そのあいだお店へいきました。そして、かえってきて、お茶をのんで、そしてパンがやけて、そしてもってきてくれると言ったのでして、かえりました。

そしてパンがとどいて、かえってパンをお母さんとはんぶんに分けてたべました。クリームのはいってないところもおいしかったです。そしてパンもおいしかったし、パンをつくって、たのしかったです。

☆愛情をこめなくとも、パンは出来上がる事をさとられてしまいました。実際のところ、パンジーのパンはすべて愛情がこめられています。それは本当にひとつの例外もなく。たまに、いきすぎた愛が、パンをだめにするもありますが。また、機会があったら実習に来てください。歓迎します。(吉竹)

書き損じハガキ、切手(未使用)を待っています!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

<後援費を振り込んでいただいた方> (敬称を略させていただきます)

浜 樹子

<カンパ・寄付をいただいた方>

堀田 隆 コレクターズ鉄道フォーラム有志 布施郵便局解放研 丸山 撰
梅園 裕

<書き損じハガキをお送りいただいた方>

田中 匠 川田真由美 武田澄男 宮森藤江

<外へ飛び出すためのカンパをいただいた方>

神田 正治



パンジーのメンバーが講演に行きます!

障害者も健常者も共に暮らしやすい社会について、一緒に考えませんか。学校の教師や生徒、知的障害の人々、市民講座、ヘルパー対象など、どこへでもでかけてゆきます! 詳しくはパンジーまでお電話ください。【10月の実績】 キリスト教社会福祉専門学校/英田北小学校

1998年 ピープルファースト世界大会inアラスカ のためのカンパをお願いします。

世界中の知的障害者が集うピープルファースト世界大会に参加したい! そんな熱い想いととも、「どらえもん会」が中心となって、旅費のために貯金をはじめました。

現在はカンパや講演の謝礼などを中心にして、少しずつ貯めています。しかし、まだまだ目標には達していません。そこで、ぜひ、カンパのご協力をおねがいします。



パンジーでは後援会員を募集しています。



賛助会員	1口	1か月	500円
本会員	1口	1か月	1,000円
特別会員	1口	1か月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		

クリエイティブハウス「パンジー」

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市城東区東中浜2-10-3
緑橋グリーンハイツ1F・7F企画気付